

## 『ペンテコステ～初夏の風を感じつつ』

吉田真司

本日、私たちは「ペンテコステ」を祝います。ペンテコステとはギリシア語で「第50番目」を意味する言葉です。ユダヤ教の最大の祭りである「過越祭」から数えて50日目のお祭りなので、「五旬祭」とも呼ばれますが、古くは小麦の収穫感謝の日として守られていました。聖書によれば、キリストの十字架の死に失望落胆していた弟子たちが、復活されたキリストに出会い、励まされ、段々に生きる力を回復していたころ、エルサレムの2階座敷に皆が集まって祈っていました。すると突然、激しい風が吹いてきたような音とその家一杯に響き渡り、舌のようなものが炎の形をとって一人ひとりの上にとどまり、一同は聖霊（今も生きて働く神の力）に満たされたのでした。その日、地中海沿岸の色々な国や地方からこの五旬祭の祭りに沢山の人が集まって来ていました。エジプトからメソポタミヤ、小アジアやローマなどから来ていた人々もいたのですが、皆、弟子たちの言葉（福音の証し）がよく分かり、彼らも大いに感激して、その日バプテスマを受けた人々が3千人もいたということです。イースターから数えて50日目がこの日にあたり、この日は「キリスト教会の誕生日」とも言われています。

霊は「風」とも訳せます。風は、違った性質の空気が触れ合うことによって起きると聞きます。暖かい空気と冷たい空気、乾いた空気と湿った空気など、性質の異なる空気が出会うと、そこに風が起こるのです。それと同じように、互いの違いが出会う中で、神様の風、霊の働きを感じる事が出来ます。多様なものとの出会いが風を起こします。共に集まる事によって、互いに違った賜物が出会うと、そこに新しい風が流れ出し、よどんだ空気が一新させられるのです。

往々にして同質のもの（存在）が集まることに安住することの多い私たちですが、異質なもの（存在）との出会いの中で、自らを刷新するしなやかさを持ち合わせていたい、常に聖霊の風が吹き抜けているような喜びを互いに分かち合えるものでありたいと思います。——「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」(マタイ 18:20/礼拝の言葉)

## 教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00～10:00 (相模原礼拝) 午前10:40～12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30～10:20 (嬰兒、幼児、小学生、中高生、青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)
祈り会	水曜日	午後 7:30～9:00
金曜集会	金曜日	午前10:30～12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前10:00～12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30～3:00 (長谷川家)

## 日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&FAX 046 (274) 3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>